# Inner Shield、懸架系の冷却時間

### 理学系研究科物理学専攻 修士2年 35-106033 榊原裕介

#### 2011年8月31日

# 1 Inner Shield の冷却



#### 図 2: 冷凍機の冷却能力 Q<sub>cryo</sub>



図 3: 温度変化

図 1 において質量  $M_{\rm sh} = 410$  kg の Inner Shield を冷凍機 4 台で冷却したときの温度  $T_{\rm sh}$  の変化を考える。冷凍機の冷却能力を  $Q_{\rm cryo}$  (ここでは LCGT 冷凍機の冷却試験結果から算出した [1] 図 2 を線形補間した)とすると、解くべき方程式は

$$\frac{dT_{\rm sh}}{dt} = -\frac{4Q_{\rm cryo}(T_{\rm sh})}{M_{\rm sh}C_{\rm Al}(T_{\rm sh})} \tag{1}$$

である。ただし、 $C_{A1}$ はアルミニウムの比熱であり、[2] のデータ(図7に示した)を用いた。これを解くと図3 を得た。

# 2 Inner Shield、懸架系の冷却



#### 図 4: 熱伝導、熱放射による冷却



図 5: 温度変化

図4のように熱伝導と、各 mass から Inner Shield への熱放射を考慮するモデルを考える。温度の時間依存を求めるためには

$$\frac{dT_{\rm sh}}{dt} = \frac{-4Q_{\rm cryo}(T_{\rm sh}) + Q_{\rm sp}(T_{\rm sh}, T_p) + Q_p(T_p, T_{\rm sh}) + Q_i(T_i, T_{\rm sh}) + Q_t(T_t, T_{\rm sh}) + Q_{r1}(T_{r1}, T_{\rm sh}) + Q_{r2}(T_{r2}, T_{\rm sh})}{M_{\rm sh}C_{\rm Al}(T_{\rm sh})}$$

$$\frac{dT_p}{dt} = \frac{-Q_{\rm sp}(T_{\rm sh}, T_p) + Q_{\rm pi}(T_p, T_i) + Q_{\rm pr}(T_p, T_{r1}) - Q_p(T_p, T_{\rm sh})}{M_p C_{\rm cu}(T_p)}$$
(3)

$$\frac{dT_i}{dt} = \frac{-Q_{\rm pi}(T_p, T_i) + Q_{\rm it}(T_i, T_t) + Q_{\rm ir}(T_i, T_{r2}) - Q_i(T_i, T_{\rm sh})}{M_i C_{\rm Cu}(T_i)}$$
(4)

$$\frac{dT_t}{dt} = \frac{-Q_{\rm it}(T_i, T_t) - Q_t(T_t, T_{\rm sh})}{M_t C_{\rm sep}(T_t)} \tag{5}$$

$$\frac{dT_{r1}}{dt} = \frac{-Q_{\rm pr}(T_p, T_{r1}) - Q_{r1}(T_{r1}, T_{\rm sh})}{M_{r1}C_{\rm Cu}(T_{r1})}$$
(6)

$$\frac{dT_{r2}}{dt} = \frac{-Q_{\rm ir}(T_i, T_{r2}) - Q_{r2}(T_{r2}, T_{\rm sh})}{M_{r2}C_{\rm Cu}(T_{r2})}$$
(7)

を解けばよい。ただし、 $C_{sap}$ 、 $C_{Cu}$ はサファイア、銅の比熱であり、それぞれ [3]、[4] のデータ(図7)を線形補間したものを用いた。また、両端が温度  $T_x$ 、 $T_y$ のときの本数 N、断面積 S、長さ  $\ell$ 、熱伝導率  $\kappa$ のファイバーを 伝わる熱量は

$$Q_{xy}(T_x, T_y) = \frac{NS}{\ell} \int_{T_x}^{T_y} \kappa(T') dT'$$
(8)

(2)

であり、サファイア、アルミニウムの熱伝導率として、それぞれ [6] (サイズ効果を考慮)、[4] (サイズ効果を無 視)のデータ(図8)を線形補間したものを用いた。さらに *x* から Inner Shield へ放射によって伝わる熱量は

$$Q_x(T_x, T_{\rm sh}) = \frac{A_x \sigma(T_x^4 - T_{\rm sh}^4)}{\frac{1}{\epsilon_x(T_x)} + \frac{A_x}{A_{\rm sh}} \left(\frac{1}{\epsilon_{\rm sh}} - 1\right)}$$
(9)

である。ただし、 $\epsilon_x$ は x の熱放射率であり、サファイア、銅の熱放射率としてそれぞれ [3]、[5] を線形補間した もの(図 9)を用いた。そして、Inner Shield の熱放射率は  $\epsilon_{sh} = 0.03$  (ECB 処理したアルミニウム表面を想定、 [5])とした。

また、各表面積は

$$A_p = 0.378 \text{ m}^2$$
 (44 cm × 33 cm × 5.7 cm の直方体の表面積) (11)

$$A_i = 0.124 \text{ m}^2$$
 (31 cm × 20 cm × 11 cm の直方体の上面、下面の面積) (12)

$$A_t = 0.0760 \text{ m}^2$$
 (直径 22 cm の円柱の底面積) (13)

$$A_{r1} = 0.169 \text{ m}^2$$
 (44 cm × 33 cm × 11 cm の直方体の側面積) (14)

$$A_{r2} = 0.182 \text{ m}^2$$
 (直径 29 cm、厚さ 20 cm の円柱の側面積) (15)

#### である。

これを解くと、Inner Shield、各 mass の温度変化として図 5 を得た。

### 3 Inner Shield、懸架系の冷却 (High emissivity coating)

熱放射による冷却効果を最大にするため、Inner Shield 内側、Platform、IM、RM、RM for IM 表面に DLC(Diamond Like Carbon) コーティング ( $\epsilon = 0.41$ 、波長 10  $\mu$ m での吸収率の測定値を使用)を施したと仮定し、同様の計算 を行ったところ図 6 を得た。



図 6: 温度変化

# 参考文献

- [1] 木村誠宏: private communication (2011)
- $[2] http://cryogenics.nist.gov/MPropsMAY/5083\%20Aluminum/5083Aluminum_rev.htm$
- [3] Y.S.Touloukian: "Thermophysical Properties of Matter Volume 5 Specific Heat Nonmetallic Solids," IFI/Plenum (1970)
- [4] 産総研熱物性データベース、NMIJ Database Working Group
- [5] 榊原裕介 et al.:「大型低温重力波望遠鏡(LCGT)熱シールド用金属の低温における波長 10 μm での反射率 測定」低温工学 46 (2011) 434-440
- [6] K.Yamamoto: "Data of Parameters of cryogenic payload in LCGT," LCGT DocDB (2011) JGW-T1100569v1



図 7: 比熱(サファイア [3]、アルミニウム [2]、銅 [4] ) 図 8: 熱伝導率(サファイア [6]、アルミニウム [4] )



図 9: 熱放射率 (DLC は波長 10 µm での吸収率を測定、サファイア [3]、銅 [5])